

海龍王寺旧境内の発掘

1969年度歴史研究室・平城宮跡発掘調査部の調査 3

調査部は、1969年12月に、奈良市法華寺北町にある海龍王寺の、経蔵の東に隣接する空地のうち 1.4 a について、宅地造成にともなう緊急調査を実施した。発掘区の中央から東に向っては、地山が急激に 1 mほどさがっており、出土瓦からみて、中世に削りとられたものらしい。発掘区の北は、宅地造成のために削平され、遺構をとどめていなかった。

発掘区の南端には、東寄りに東西棟、西寄りに南北棟の建物がある。東西棟は東部を後世に破壊されている。南北棟は、倉庫ふうの建物である。海龍王寺創建当初の建物であろう。発掘区の中央には、棟の方向を東北—西南にとる建物がある。溝・柱穴なども検出した。

出土遺物の大半を占めるのは瓦である。軒丸瓦が13点、軒平瓦が11点あり、このうち、6282・6721の両形式が、それぞれ 9 個と 7 個を占めている。

(石井則孝)

第1表
海龍王寺旧境内の遺構

第1図 海龍王寺旧境内遺構配置図